

夢を描き、実現できる子どもの育成

～子どもたちが自分の好きなことをより好きに～

夢に向かって挑戦する力

① 夢や目標に向かって挑戦する力の育成

- 小学校からのキャリア教育の充実と体験活動を重視した取組
- 「暗記のすすめ学」による社会においても必要とされる自分の思いや考えを表現する力の育成

基礎基本の定着

活用力・表現力の育成

② わかる授業に向けた授業改善

- 協調学習における主体的・対話的で深い学びの授業実践の推進
- つきたい力を明確にした単元構想と単元計画
- 「めあて・課題、まとめ・振り返り」を位置付けた「わかった！できた！」を実感する新大分スタンダードに基づく子ども主体の授業づくり
- 単元テストでつまずきの把握。つまずきに応じた授業展開
- 「まなびの扉」による教職員オンライン研修（特別支援教育、協調学習等）
- 学校の規模に応じた授業形態
(アウトプット型授業、個別指導、補習授業、教科担任型授業等)
- ICT 機器を活用した個別最適な学びの推進（まるぐランド、ドリルパーク等）
- 英語教育における単語力と音読力の徹底

③ 家庭学習との連動

- 家庭学習における効果的な ICT 機器の活用（デジタル教科書の活用等）
- 調べ学習・レポート学習
- 個別最適な家庭学習用プリントやドリルパーク問題

小学校6年生 全国学力・学習状況調査

平均正答率	国語	算数
市	69.0	57.0
県	69.0	63.0
全国	67.7	63.4

観点別 平均正答率	国語		算数		
	知識・技能	思考・判断・表現	知識・技能	思考・判断・表現	
正答率	市	70.0	68.7	67.9	42.0
	県	71.2	68.0	72.5	50.7
	全国	69.8	66.0	72.8	51.4

学力調査結果の概要

（1）良好な項目

- ◇国語科では、話し合いの話題や発言を踏まえ、自分の考えを書く問題については、県平均を8.3%上回り、指定された条件で自分の考えを書く力について成果が見られる。また「知識」「活用」ともに県・全国平均を上回っている。
- ◇算数科では、数量関係を口を用いた式で表したり、グラフの特徴を理解し割合を読み取るなど基本的な問題において正答率が高くなっている。

（2）課題がある項目

- ◇国語科について、長い1文の中から主語と述語の関係を捉える問題において、県平均を下回っている。また、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかを見る問題について正答率が58%と低くなっている。
- ◇算数科では、算数用語に着目して説明を書いたり、グラフから読み取ったことを言葉や数字を使って書いたりすることについて県平均より下回っていた。また球の直径の長さと同立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す問題の正答率がかなり低かった。

質問紙調査結果の概要

（1）良好な項目

- ◇「5年生までの学習でタブレットなどのICT機器を活用して自分の考えや意見を分かりやすく伝える」の項目について、肯定的回答が全国・県を上回っている。
- ◇「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表していましたか」の項目について、肯定的回答が全国・県を上回っている。
- ◇「国語、英語の勉強は好きですか」の項目は肯定的回答が全国・県を上回っている。

（2）課題のある項目

- ◇「自分にはよいところがあると思いますか」に対し、「当てはまらない」と回答した児童が16.9%（県10%）と高くなっている。
- ◇「1日当たりどれくらいの時間テレビゲームをしますか」に対し、4時間以上が26.5%（県12%）と長くなっている。また、「SNSや動画視聴」の項目についても、4時間以上が20.5%（県12%）と同様に長時間になっている。

中学校3年生 全国学力・学習状況調査

平均正答率	国語	数学
市	59.0	48.0
県	58.0	50.0
全国	58.1	52.5

観点別 平均正答率		国語		数学	
		知識・技能	思考・判断・表現	知識・技能	思考・判断・表現
正答率	市	62.3	57.0	57.9	25.6
	県	62.1	54.6	61.0	27.0
	全国	62.0	55.4	63.1	29.3

学力調査結果の概要

（1）良好な項目

- ◇国語科「話すこと・聞くこと」において、話し合いの展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分ならどのような考えを述べるかを記述する問題で、全国や県の平均を8%以上上回っていた。話し合いの目的を踏まえて自分の考えをまとめることができている。
- ◇数学科「数と式」において、図から考察した上で正の数と負の数の計算を行うことや、「関数」において、1次関数のグラフを読み取り、交点の座標が示すものは何か考えることができている。

（2）課題がある項目

- ◇国語科「読むこと」において、文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示の関係を捉えることができるかどうかを見る問題において全国や県の平均を7%以上下回っている。また、「書くこと」において、表現の効果を考えて描写することはできたものの、その表現にどのような工夫を加えたのかについて具体的な考えを述べることができている生徒がいる。また無解答率は16%と高かった。
- ◇数学科の「データの活用」において、確率の知識・技能の力の定着が不十分であった。
- ◇数学科において、「整数の性質について説明を完成させる」「箱ひげ図を比較して説明する」「辺の長さが等しいことを証明する」など、記述で表現する問題について課題が見られる。

質問紙調査結果の概要

（1）良好な項目

- ◇「自分にはよいところがあると思う」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の【自己有用感】の肯定的回答は、全国・県と比較して上回っている。
- ◇「2年生の時に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器の使用」の【授業改善】の項目では、全国・県の肯定的回答を大きく上回っている。
- ◇「解答を文章で書く問題がありました。どのように取り組みましたか」の回答は「最後まで解答を書こうと努力した」が78.9%（全国72%）と高く、かつ無回答が少ない。

（2）課題がある項目

- ◇「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について家の人と約束したことを守っていますか」の項目において、良好な回答が全国・県を下回っている。
- ◇「国語の勉強は好きか」「大切だと思うか」の項目について、肯定的回答は全国より低いが、「内容はよくわかる」と回答している生徒は全国より高く、89.8%（全国82.7%）となっている。